

# 鈴鹿の風

すずかのかせ

2020年

院長 久留 聡

生き生き健康フェアを開催  
ベスト口演賞を受賞しました  
名誉院長の部屋「中央病棟10年」  
医学コラム「鈴鹿病院 重心病棟の移り変わり」  
地域医療連携室だより

VOL.  
38

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌



生き生き健康フェアでの様子



# 2020年

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 院長 **久留**

今年は西暦2020年という区切りのいい年です。夏には東京オリンピックが開催されますし何かいい年になりそうな予感がします。よく10年ひと昔と申しますが、ちょうど10年前の2010年に当院では3階建ての中央診療棟が新しく完成いたしました。この年は、プロ野球では中日ドラゴンズが、Jリーグでは名古屋グランパスエイトが優勝し、名古屋在住の私としては二重の喜びでした。しかし、その後両チームともに低迷、ドラゴンズが現在7年連続のBクラス、グランパスは一時J2に降格するなど全くいい所がありません。今年こそ奮起を期待したいものです。

筋ジストロフィーの分野でもこの10年間でいろんな変革や進展がありました。2009年に始まった筋ジストロフィ

ーのレジストリーであるRemudyは、登録者数も順調に増え、疾患の種類もジストロフィン症のみならずGNEミオパチーや筋強直性ジストロフィーなどに広がっています。また2015年には筋ジストロフィーが難病に指定されています。2014年にDuchenne型筋ジストロフィーの診療ガイドラインが出版され、今年には筋強直性ジストロフィーの診療ガイドラインが発刊される予定です。私自身も、これらのガイドラインの作成作業に加わせていただきました。

そして、いよいよ本格的な治療の時代に入りつつあります。2014年にヨーロッパでDuchenne型筋ジストロフィーの治療薬としてAtarulenが仮承認となり、続いて2016年にはアメリカで

さとし 聡



exon51スキップのeteplirsenがFDAで仮承認されました。今年はいよいよ本邦でもexon53をスキップするアンチセンス薬の承認が期待されています。同じく難病である脊髄性筋萎縮症に対する治療薬スピルラザが2年前に承認されて大きな話題となったのは記憶に新しい所です。

今年の7月には名古屋において第7回の筋ジストロフィー医療研究会を開催いたします。今回は基礎医学系の日本筋学会との合同開催という形式にいたしました。新たな局面を迎えつつある筋ジストロフィーをめぐって、基礎研究者と臨床現場の医療者が熱い議論を戦わせる場にしたいと考えています。興味のある方は是非ご参加ください。

## 国立病院総合医学会における発表でベスト口演賞を受賞しました

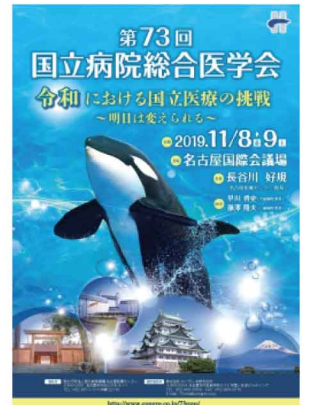
令和元年11月8日～9日に名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）で開催された国立病院総合医学会において、病棟看護師長 丹羽鈴美がベスト口演賞を受賞しました。

### 受賞者コメント

当院では入院患者さんの約4割が人工呼吸器を装着され、コミュニケーションもとりにくい方が多く入院されています。また、病気の影響で、拘縮や変形が強く、ポジショニングに時間を要しています。そこで、先輩の看護の継承ができ、専門職としての自立ややりがいをもてるのではないかと考え、2018年10月より全病棟の看護方式をパートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）に変更しました。今回は、PNSを導入する前と、導入半年後に看護師職務満足度調査を行い、看護師や介助員の満足の変化をデータ分析したことを発表しました。

今回このような賞をいただけたのも、データ分析のためのアンケート実施にご協力いただいたスタッフの皆さんのおかげであると感謝するとともに、ご指導いただいた諸先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（看護師長 丹羽 鈴美）



Let's study the medical !!

## 生き生き健康フェアを開催しました



11月13日にイオンモール鈴鹿1階北コートにて、第一回NHO鈴鹿病院「生き生き健康フェア」を開催しました。

当日は「無料健康チェック・健康相談」をテーマに病院スタッフによる骨密度や血圧測定・お薬や栄養相談・ふくし相談などをおこない大勢の方々にぎわいました。





完成間近の中央病棟

## 名誉院長の部屋

名誉院長 小長谷 正明

# 中央病棟10年

10年前の平成22年2月27日の朝、私は居ならぶ来賓や職員を前に次のような式辞を読み上げました。

「本日、ここに独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院、中央病棟240床が完成致しました。それは、とりもなおさず、新しい鈴鹿病院の元年であると宣言します。」

ピカピカで広々とした筋ジスの東西1階病棟と重心の同じく2階病棟です。患者さん達や職員の気分をアップ・テンポにと、薄いピンクにした外壁が眩しかったです。

その8年前の4月に病院長になった私の前にあったのは、およそ21世紀の医療・療養環境とは考えられない、立て付けの悪い古ぼけた平屋の病棟の連なりでした。これは縄文時代だと自嘲しながら、なんとかすることが使命だと考えたのです。2年後に国立病院は独立行政法人化し、会計も半独立採算制となったので、施設整備を進めることにしました。腕に覚えのある中村恭生事務長は自分で図面を引いてテスト・プランを練り、いろいろと説明し

てくれました。それが、後に本格的な設計や建築作業になる時、私のイメージ作りに大いに役に立ちました。また、プランを纏める事務職員や櫻井さんをはじめとする看護師さんたちと、北陸地方や関東地方の病院まで一緒に見学に行き、アフター・ビジネスでの痛飲・共感楽しい思い出です。しかし、決して平坦な道のりではなく、楽しくない事が津波のように押し寄せ、多くの職員の方々の尽力がなければ乗り越えられなかったような難産でした。

次の事務長の鈴木利生さんは、新病棟建設に張り切って着任され、専門職などの職員をいつも大きな声で叱咤しながらプロジェクトを推進し、私も一緒に何度か東京の国立病院機構本部に出かけて、プランの説明など交渉をしました。が、何かと難癖をつけ感情的な対応をする要路の人間や、社会全体の経済状況、設計基準の見直しなどで、工事の入札作

業がうまくいかない時に、思いもよらぬことがさらに覆い被さってきました。

平成9年1月に、ある職員が不祥事で逮捕されました。今思うと、冤罪スレスレなファジーな事件でしたが、対応を誤ると病院がパニックに陥り、新病棟建設どころでは無くなります。その夜に、突然襲来してきた新聞記者たちの津波に、私や鈴木事務長さんは記者会見で、事情も把握しないままに頭の中下げっぱなしでした。当直だったの奥田副総師長さんは、新聞記者が病棟に行かないように、通路で張り番して警戒したと言います。翌日の会議で、ガクリと肩を落として喋る私に、小川恵子総師長さんから、病院も院長も悪いことをしていないのだから、下向きにならずに堂々と前を向いて進んで下さいと、励まされたことを覚えています。でも、入札作業を含めて工事関係は全面的ストップです。

「天が下よるずにことに期あり、萬の技に時あり」という聖書の言葉を胸にしまいながら、時期を待ち、方策を練って、なんとか新病棟を完成させました。私の当初の見積もりよりも2年も遅れました。ともあれ、新病棟建設作業とこれらの対応に鈴木事務長さんは四苦八苦でした。3年ほど頑張っていたいただきましたが、次の任地への転勤辞令を読み上げて目をあげると彼の頭が白くなっているのに気がきました。並ならぬご苦労だったのです。

病棟の建物が完成すると、今度は引越しです。筋ジス、重心、それぞれ40人ずつの3個病棟を、60人ずつ2個病棟に再編です。患者さんも職員もシャッ



引越し風景

フルです。しかも、朝は旧病棟で食事や投薬、看護を行い、昼は新病棟で同じことをしなければなりません。膨大な診療器具、物品や記録文書の移動もあります。何ヶ月も前から、折山栄総看護師長の指揮・統制のもとで、各病棟の師長さんや久留先生や村田先生などのドクターがプランを練り、実行しました。その結果、なんの滞りもなく大引越しが、筋ジス重心それぞれ1日で済んでしまったのです。わが病院ながら、内心ビックリ。ここまでの一糸乱れぬ組織力と実行力が、鈴鹿病院の看護課にあるとは・・・。

約30年前、私はこの病院に二度目の勤務を始めましたが、どうひいき目に見てもここには評価できるものはありませんでした。看護もしかりで、飯田光男院長はいつも嘆いていました。ちょうどその頃、ほっそりとした若い婦長が新任で外来担当やってきました。奥田艶子さんです。パーキンソン病も知らないようで、大変だと思ったのですが、恒にメモを離さない勉強熱心さと、無駄口を叩かずに黙々とした勤務態度で、いつの間にか中核的な存在になっていました。やがて転勤し、私が病院長になってしばらくして、今度は副総看護師長としての転入で、見るからに

貫禄がついていました。質と量ともに看護力の充実が課題だった時期に、ほぼ鈴鹿病院生え抜きの臨床畑の副総師長ということで、小川総師長、次の折山総師長をサポートし、一般の看護職員と病院との間も円滑にし、ポトムアップに尽くしてくれたのです。

こうして難産の末に中央病棟が出来上がり、その余勢を駆って平成24年11月には外来診療棟も完成させ、MRIや電子カルテも導入し、どうやら21世紀らしい病院に衣替えできました。この時は、奥田さんは総看護師長として、外来診療棟開棟の指揮を取っていました。2年ほどして、また転勤して行く時、「ずっと、見てきましたが、このような立派な病院に再生できたのは、先生だからです」と言われた時は、勲章を貰ったような気分になりました。3年後に彼女は三重中央医療センター看護部長で定年を

迎えたのですが、日ならずして逝ってしまいました。そして、中央病棟建築で共に歯を食いしばって頑張った鈴木利生さんも、定年直後に亡くなっていました。寂しいことです。

私は、病院の敷地を回るのを日課にしています。今は、広くて明るい病棟で、それが当たり前のように患者さんが過ごし、職員が行き交っています。そこを通るたびに、あの大変な時期を思い出し、苦楽を共にしながら心一つにして施設整備に邁進した、多くの職員の顔が懐かしく脳裏に浮かべています。



後列左 鈴木 利生 事務長・後列右 奥田 艶子 副総看護師長  
前列左 小川 恵子 総看護師長・前列右 小長谷 正明 病院長  
(2008.3)



## 中央病棟開棟10周年に寄せて

静岡医療センター附属静岡看護学校

教育主事 櫻井 賀奈恵

中央病棟開棟10周年おめでとうございます。開棟して早10年、開棟準備の楽しさと大変さと期待感が昨日のことに思い出されます。その頃私は(旧)3病棟の看護師長でした。待望の新病棟でしたが、筋ジストロフィー3個病棟・重症心身障がい3個病棟を其々2個病棟に再編することから、業務・日課の調整や看護計画の検討等、患者とスタッフが安心して移転する為に準備することは盛りだくさんでした。看護師長は連日のように集まり、病棟の間取りから壁紙や床の材質・デザイン等について頭を悩ませ意見を交わしながら一つひとつを決めていきました。完成した新病棟を見たとき、その広さに驚きながらも、機能的であたたかい色彩に包まれた病棟に感動と安堵を覚えました。

最後に、中央病棟開棟と共に姿を消した旧病棟。古くて狭い病棟でしたが、そこで患者と共に過ごした時間への思い入れも深く、旧病棟での日々のうえに今の中央病棟があることを忘れずにいたいと思っています。





## 鈴鹿病院 重心病棟の移り変わり

さんの45%が20歳未満と、約半数の方が未成年でした。しかし、令和元年には、20歳未満の方が、10%と大きく減り(10歳未満はゼロ)、成人の方が9割となりました。62%が40歳以上、最高齢は、72歳と入院患者さんは、高齢の方が大半を占めるようになってきました。平均年齢からみても、平成元年には21歳でしたが、令和元年は41歳と、この30年間で20歳も高齢化が進みました。

今まで、小児が主体とイメージされてきた重症心身障害病棟も、当院では、ほぼ成人の方々が入院する病棟へと変わりました。

また、全国的な医師不足の問題のありを受け、当院では一時期、小児科医が不在となったことも、患者さんの

年齢構成を含めた現在の治療体勢に大きな影響を受けました。

その結果、治療に当たる医師も内科が主体となり、非常勤の小児科、皮膚科、整形外科と共に60床2病棟の計120床を協力して治療にあたってきました。

しかし、高齢化の波は、患者さんだけではなくとどまらず、この4月で3名の医師が65歳定年で退職されます。患者さん、及び、ご家族の方々には、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。また、現在、当院では勤務していただける医師を募集しており、興味を持たれた方は、一度ご連絡をしていただければ幸いです。

(内科部長 野口 雅弘)

昨年、平成から令和へと元号が変わり、一つの時代の節目を迎えました。

時代の移り変わりによって社会に様々な影響が生じるように、医療分野、そして鈴鹿病院にも、その変化が伝わってきます。

例えば、今の日本では、高齢化や医師不足が大きな問題になっています。

当院でも重症心身障害病棟の入院患者さんの年齢構成が、時代と共に、大きく変わりました。平成元年には、患者

## 地域医療連携室だより

### 出張講演を実施しました

令和元年9月6日(金)及び令和元年12月6日(金)に、亀山市社会福祉協議会より亀山市居宅介護支援事業所連絡会の講演依頼をお受けいたしました。自身の勉強にもなると思い、微力ではございますが、亀山市総合保健福祉センターにて「難病の理解と支援について」という演題にて講義をさせていただきました。

地域の介護支援専門員の皆様と顔の見える関係づくりが出来たことを大変嬉しく思っております、これを契機にさらなる密接な連携強化が可能になると感じました。今後とも近隣地域のみならずネットワークを拡げて参ります。難病を持つ患者さんあるいは福祉サービスの利用者さんのニーズを満たせるよう、頑張ってお参りますので、よろしくお願いいたします。

(医療社会事業専門員 乾 大介)



「難病の理解と支援について」という演題にて講義をさせていただきました

## 令和2年度 院内成人式が開催されました



今年度は4名の方が新成人となりました

1月22日(水)、中央病棟3階プレイルームにて院内成人式が開催されました。今年度は4名の方が新成人となりました。ご来賓として鈴鹿市、杉の子特別支援学校、ひまわり会はじめ新成人ゆかりの皆様にお越しいただきました。病院スタッフの見守りと温かな雰囲気の中で、保護者の皆様とともに20歳の門出をお祝いしました。インフルエンザ流行対策で2部構成となりましたが、4人の方ともお元気に出席され笑顔があふれていました。

(副院長 南山 誠)

## 鈴鹿病院 NEWS

### 職員表彰式・ 永年勤続表彰が 行われました

令和元年12月27日(金)に特に優れた功績があったと院長が認めたチーム又は個人に対して贈呈する「職員表彰式」および、長きにわたり職務に精励した職員をたたえる「永年勤続表彰」を行いました。





## ■ 外来診察担当表 (2020年2月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	小長谷	酒井	久留	小長谷	久留
	木村		南山		
内科	野口	落合	安間 (循環器内科)	安間 (循環器内科)	棚橋 (循環器内科)
小児科		予約			予約
整形外科		田中 (装具外来)			田中
リハビリテーション科		田中			田中
皮膚科		予約			
歯科	小泉(午前)	若林(午後)		奥村(午後)	
禁煙外来	野口			安間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 4月より内科外来担当が変更となります。金曜日は休診となる予定です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

## ■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車20分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス  
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



## 編集後記

新しい年が始まりました。今年は東京オリンピックが開催する年ということもあり、活気に満ち溢れた一年となりそうです。選手の雄姿を励みに日々の業務はもちろん、より良い広報誌の発刊を目指して「鈴鹿の風」にも一生懸命取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも「鈴鹿の風」をよろしくお願い致します。

(臨床検査技師 日比 夢乃)